

非鉄金属市況と需給動向

2019年7月（銅、亜鉛、ニッケル、金・白金）

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

おことわり: 本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

5,800～6,000US\$/tで安定して推移、Cochilcoは2019年平均価格を6,193US\$/tと予想

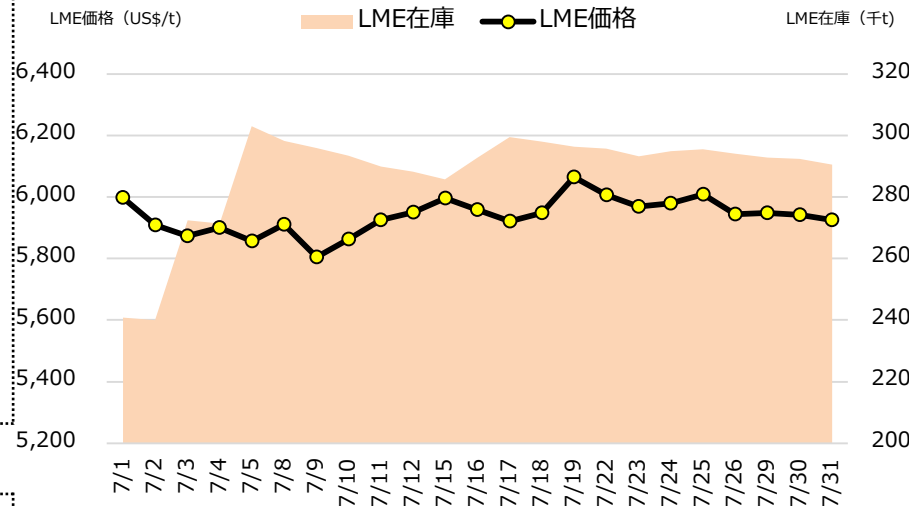
■市況動向

- ① **5,800～6,000US\$/tで安定した動き**：1日、5,999.0US\$/tで開始。上旬は、前月29日の米中貿易協議後、米トランプ大統領の「米国に幾分有利な合意にする」との発言による需要見通しへの懸念やLME在庫の増加が弱材料となって価格は下落傾向を辿り、9日、5,805.0US\$/tとなった。中旬は、9日の米中通商代表の電話協議の結果に基づく米中合意への期待感のほか、15日発表の中国の鉱工業生産や小売売上高等の経済指標が好調だった結果を受けて上昇傾向を見せた。後半は5,950.0US\$/t前後を推移し、5,926.0US\$/tで越月。7月は概ね5,900US\$/t台で落ち着いた動きであった。
- ② **Cochilcoによる2019年及び2020年の価格予想**：2019年平均価格を2.81US\$/lb（約6,193US\$/t）、2020年は2.90US\$/lb（約6,392US\$/t）との予測を発表。

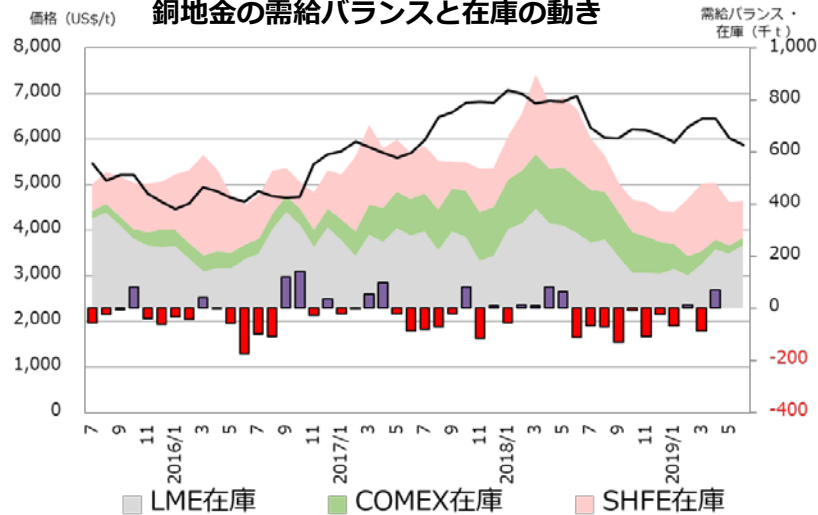
■需給動向

- △ 国際銅研究会(ICSG)(2019年春季)によると、2018年は**399千tの供給不足**であったところ、2019年および2020年もそれぞれ**190千tおよび250千tの供給不足**が続くと予測。
- △ **主要鉱山操業状況**：
- Freeport McMoRan社：Grasberg鉱山が新たに坑内採掘を開始、露天採掘から坑内採掘への完全移行計画のマイルストーンを達成。また、露天採掘終了を2019年Q3もしくはそれ以降まで延長と発表(7月1日)。
- △ **その他関連情報**：
- KAZminerals社(ロシア極東開発公社)：Baimskaya銅金プロジェクトを2020年代半ばに開始すると発表(同3日)。
 - Southern Copper社：ペルーTia Maria銅プロジェクトの建設許可発表(同9日)、15日プロジェクトの抗議デモ開始。
 - Ecuacorriente社：エクアドルMiradorプロジェクトの銅生産を正式開始(同15日報道)。

当該期間の値動き



銅地金の需給バランスと在庫の動き

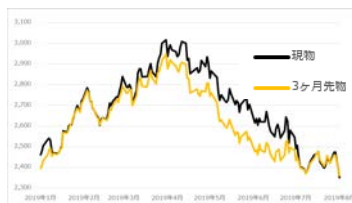


中国製錬所の増産に下押しされ10か月ぶり安値、しかし在庫も減少しており供給不足

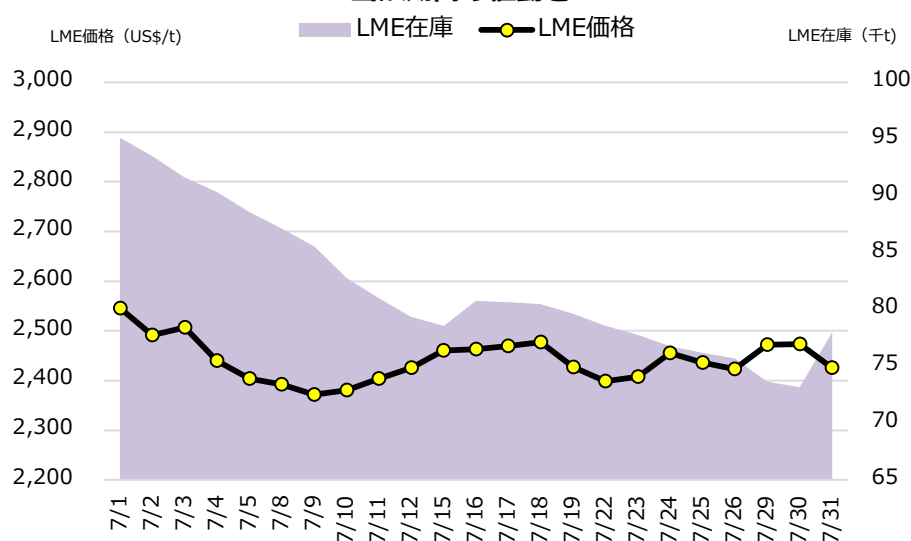
■ 市況動向

- ① **亜鉛価格10か月ぶり安値**：1日、2,546.0US\$/tでスタートし、7月初旬は軟調に推移し、2,300US\$/t台へ下落した。2019年5月より連続して下落傾向を辿っていたところ、先月に引き続き、中国の大手亜鉛製錬所での増産のニュースが需給逼迫感緩和を意識させ、価格を押し下げ、9日には2,372.0US\$/tと10か月ぶりの安値をつけた。
- ② **LME在庫減少が下支え**：7月中旬には、亜鉛LME在庫の減少が支援材料となり緩やかに回復した。亜鉛在庫は月末まで減少が続き、30日には73.2千tと4か月ぶりの低水準となった。中国・SHFE在庫は横ばいで推移し、需要減退懸念が広まった。7月下旬は米中貿易協議の動向や米FOMCの利下げ観測などで様子見相場が続いたものの、30日には2,474.0US\$/tまで上昇した。翌31日に在庫が積み増しされたことから反落し、2,425.5US\$/tで越月した。
- ③ **3か月先物価格とのspreadが逆転、順ざやに**：亜鉛は、供給不足により2017年9月頃より先物価格が現物価格を下回る「逆ざや」状態が続いていた。2019年1～2月はspreadが接近したものの、再び乖離していたところ、当該期間でspreadが接近、先物価格が現物価格を上回る日が複数見られた。

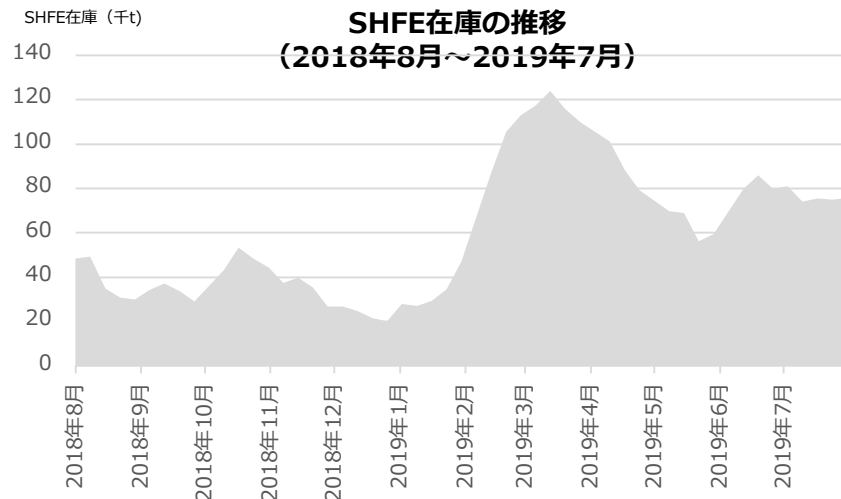
<2019年1月～7月LME価格推移>



当該期間の値動き



SHFE在庫の推移
(2018年8月～2019年7月)



■ 需給動向

- 📌 国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)(2019年春季)によると、2019年は**121千tの供給不足**との予測。2019年6月の月次発表では、2019年1～5月は**123千tの供給不足**。
- 📌 **主要鉱山操業状況**：
 - ・ CBH Resources社（豪／東邦亜鉛子会社）：操業戦略の見直しに伴い、Endeavor鉱山の人員削減を行うことを発表（7月17日）。

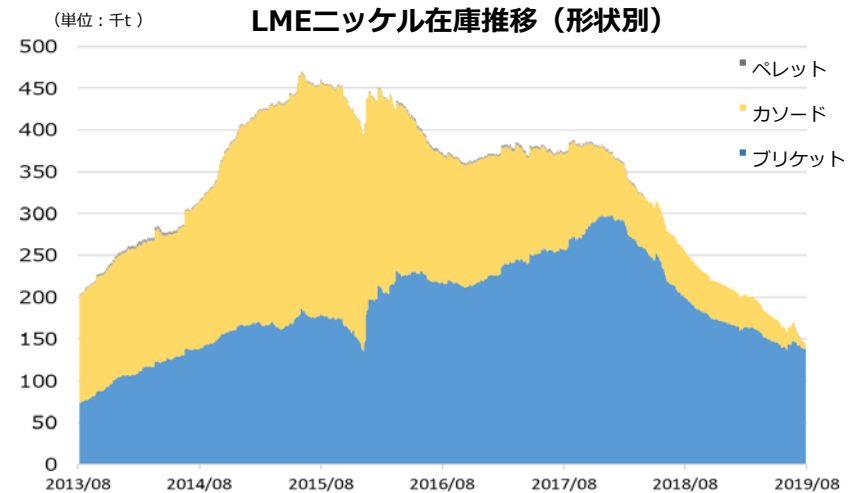
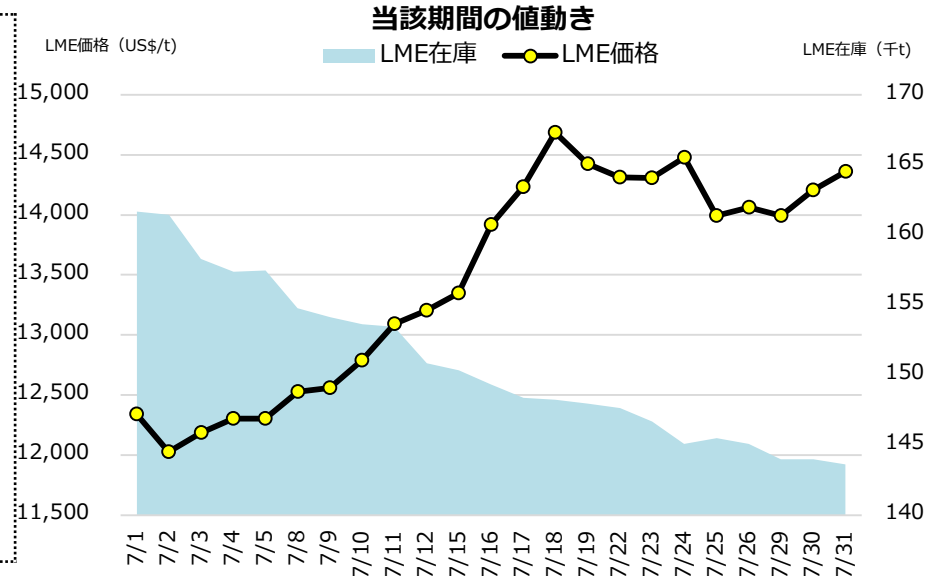
インドネシアの鉱石輸出規制動向やLME在庫の減少を背景に大幅上昇、約1年ぶり高値

■市況動向

- ① **初旬は小幅に上昇**：12,340.0US\$/tでスタート。2日にインドネシアでM6.9の地震が発生したとの報道からニッケル供給懸念が生じたこと等を受け、小幅に上昇。
- ② **インドネシア政府が鉱石輸出再禁止の方針との報道に反応**：8日、インドネシア政府が2022年に未加工鉱石の輸出を再度禁止する方針に言及したとの報道を受け、中旬にかけて価格は大幅に上昇、18日には約1年ぶりの高値となる14,685.0US\$/tをつけた。2017年1月の鉱石輸出禁止緩和措置実施の時点で2022年の鉱石輸出再禁止の方針は言及されていたものの、インドネシア政府による方針に関する報道によってタイト感が意識され、市場が大きく反応したものとみられる。また、LME在庫が月末時点で約6年半ぶりの低水準まで減少したことも価格上昇を後押しした。
- ③ **下旬はやや値を戻す**：中旬の大幅な価格上昇を受けた利益確定売り等によりやや値を戻し、14,360.0US\$/tで越月。

■需給動向

- ☞ 国際ニッケル研究会(INSRG)(2019年春季)によると、2018年の146千tの供給不足に続き、2019年も84千tの供給不足になるものと予測。
- ☞ **主要鉱山操業状況**：
 - ・ Solway社(スイス)：グアテマラ憲法裁判所は、同社が操業するFenix鉱山/製錬所に対して、近く操業停止命令を出す見込み。2017年以降、Fenix鉱山/製錬所による周辺環境への影響をめぐり、地元住民が操業への反対活動を起こしていた(7月19日報道)。
- ☞ **その他関連情報**：
 - ・ インドネシアエネルギー・鉱物資源省：8日、Ariyono石炭鉱物総局長は、2022年に未加工鉱石の輸出を再度禁止とする方針に言及(同15日報道)。
 - ・ 青山集団(Tsingshan社)：ステンレス鋼原料としてLMEからニッケル地金を大量に購入しているとの報道(同22日報道)。



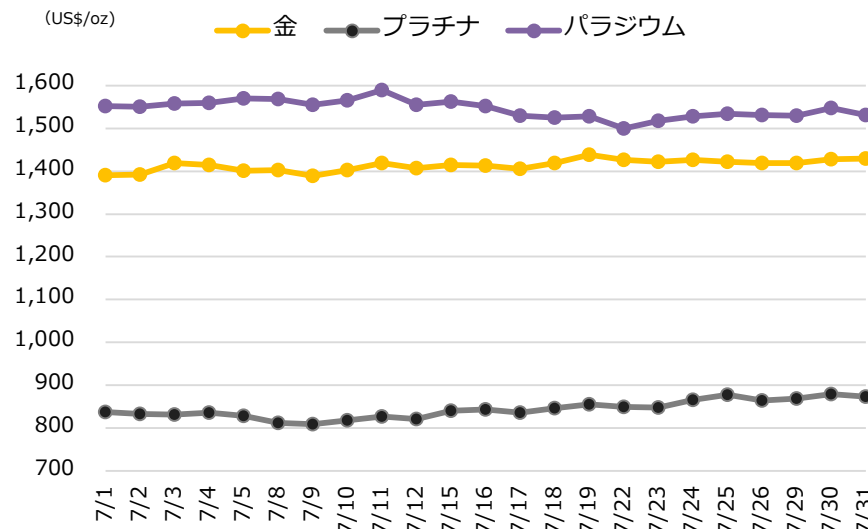
金・プラチナ・パラジウム

金、7月末の利下げ確実視で1,400US\$/oz台維持、パラジウムも最高値水準を維持

■金

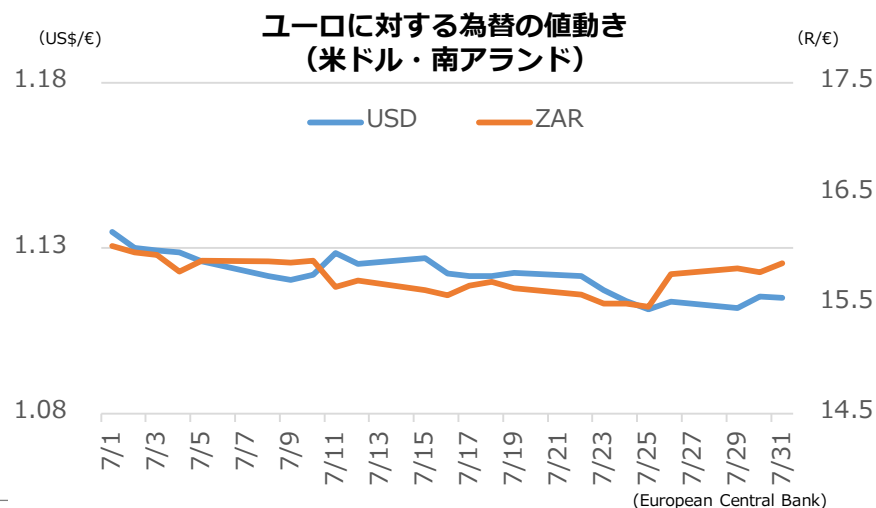
- ① **米中協議安穩に終結も対EU追加関税示唆**：G20の米中協議で対中追加関税の先送りおよび協議継続合意を受け、前日比20US\$安の1,390.08US\$/ozにてスタート。米政府が1日、対EU追加関税の対象規模拡大を発表したことで上昇に転じたが、米国雇用統計（6月非農業部門雇用者数等）が好調だったことから下落し、9日に当月最安値の1,389.73US\$/ozをつけた。
- ② **市場、7月末の利下げ確実視**：パウエル米FRB議長が10日議会で金融緩和の必要性が高まっているとの認識を示し、市場が7月末の利下げを確実視したことからドル安が進行し、消費者物価指数等の米国経済指標が好調でも投資需要の高まりは衰えず、再び1,400US\$/oz台に上昇・維持した（7月31日にFRBは利下げを実施）。
- ③ **米、イランの小型無人機撃墜で関係悪化警戒**：18日、米政府がホルムズ海峡でイランの小型無人機を撃墜し、イランとの関係悪化再懸念から価格が上昇し、19日に2019年最高値となる1,438.38US\$/ozをつけた。下旬は、ドル高基調のため小幅な値動きで、1,420US\$/oz前後で推移し、1,429.05US\$/ozで越月した。

当該期間の値動き
(AM/PM平均価格)



■プラチナ・パラジウム

- ① **プラチナ**：当月838.0US\$/ozにてスタート、米雇用統計好調による金相場下落につられて9日に当月最安値の808.5US\$/ozをつけた。その後は7月末の利下げ確実視等によるドル安で上昇基調に転じ、30日に当月最高値の879.0US\$/ozをつけ、873.5US\$/ozにて越月した。
- ② **パラジウム**：米中において需要減となる要因が無く、供給不足懸念が払拭されず今月も高値傾向が継続。1,511.5US\$/ozにてスタート、11日に当月最高値かつ約5か月ぶりの高値となる1,589.0US\$/ozをつけた。その後下落に転じ、22日に当月最安値1,499.0US\$/ozをつけ、1,531.0US\$/ozで越月した。



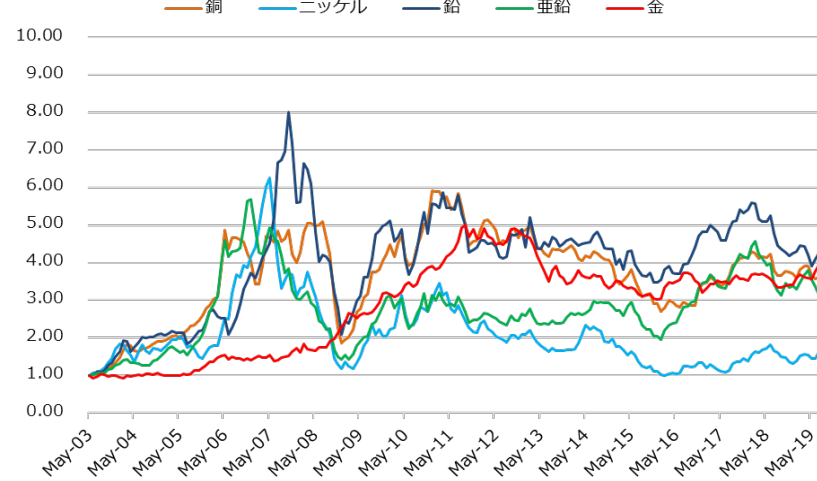
(European Central Bank)

(参考)

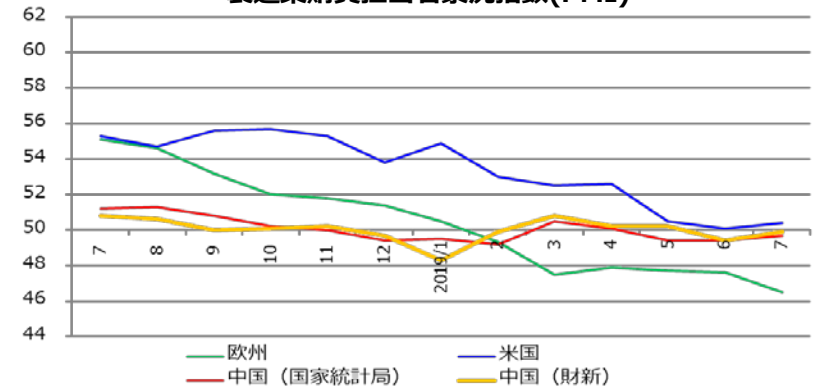
		銅	亜鉛	ニッケル	金	プラチナ	パラジウム
		LME現物	LME現物	LME現物	AM・PM平均	AM・PM平均	AM・PM平均
		(US\$/t)	(US\$/t)	(US\$/t)	(US\$/oz)	(US\$/oz)	(US\$/oz)
本報告期	期初	5,999.0	2,546.0	12,340.0	1,390.1	838.0	1,551.5
	期末	5,926.0	2,425.5	14,360.0	1,429.1	873.5	1,531.0
	最高値	6,066.0	2,546.0	14,685.0	1,438.4	879.0	1,589.0
		7月19日	7月1日	7月18日	7月19日	7月30日	7月11日
	最安値	5,805.0	2,372.0	12,025.0	1,389.7	808.5	1,499.0
		7月9日	7月9日	7月2日	7月9日	7月9日	7月22日
	平均	5,939.9	2,441.5	13,462.4	1,413.8	843.5	1,545.2
先物 (7月31日)	3か月	5,950.0	2,423.0	14,380.0	-	-	-
	Dec 1	6,015.0	2,415.0	14,720.0	-	-	-
	Dec 2	6,065.0	2,397.0	14,995.0	-	-	-
2019年 (当年)	期初	5,839.0	2,462.0	10,440.0	1,285.1	790.5	1,265.0
	期末	5,926.0	2,425.5	14,360.0	1,429.1	873.5	1,531.0
	最高値	6,572.0	3,018.0	14,685.0	1,438.4	912.5	1,604.0
		3月1日	4月1日	7月18日	7月19日	4月8日	3月21日
	最安値	5,756.0	2,372.0	10,440.0	1,271.2	783.0	1,265.0
		6月17日	7月9日	1月2日	5月2日	2月14日	1月2, 3日
	平均	6,129.4	2,686.5	12,494.2	1,323.4	834.2	1,431.5

主要非鉄金属の価格推移
(2003年5月 = 1)

(JOGMEC作成)



製造業購買担当者景況指数(PMI)



米国経済	7月の製造業PMI (IHS Markit社発表) は50.4 (前月: 50.6、予想: 50.0) であった。7月非農業部門雇用者数は前月比+16.4万人 (前月改定値: +19.3万人) と市場予想の+16.5万人をやや下回った。失業率は3.7% (前月: 3.7%) と横ばいに推移。
中国経済	7月製造業PMIは、国家統計局発表が49.7 (前月: 49.4) と前月より上昇した。財新発表は49.9 (前月: 49.4、予想: 49.5) と前月・市場予想の水準を上回った。
欧州経済	7月製造業PMI確報値は、46.5 (前月: 47.6、予想: 46.4) と前月を下回った。